美浜町小中一貫校整備基本構想

令和６年３月

美浜町・美浜町教育委員会

美浜町小中一貫校整備基本構想　目次

１．計画の背景
1-1 基本構想の目的と方法
1-2 美浜町の学校施設の課題

２．新しい学校の理念
2-1 学校再編の経緯と考え方
2-2 特色ある美浜の教育の推進

３．小中一貫校の基本的考え方
3-1 ふるさと美浜、未来を創るみんなの学校
3-2 ふるさと美浜の学校
3-3 みんなの学校
3-4 未来につながる学校

４．事業スケジュール

用語解説

ワークショップ参加者からのメッセージ

１．計画の背景

1-1 基本構想の目的と方法

1-1-1 基本構想の目的

美浜町では、少子化や児童生徒数減少に伴う小中学校の単なる統廃合ではなく、令和１０年度を目標に、すべての児童生徒が通学する魅力ある小中一貫校を、日本福祉大学美浜キャンパス内に設置し、本町の特色を活かした「新たな学校教育の創造」を目指しています。

本基本構想は、美浜町小中学校再編について、これまでの各種計画や検討内容をふまえ、新たな小中一貫校の整備及び事業実施に向けた基本構想を策定するものです。

1-1-2 基本構想策定の方法

１）ワークショップの目的

基本構想の骨格となる「小中一貫校の基本的考え方」（３章）については、町民の声を集約反映するために、区長、小学生保護者、保育所保護者、学校関係者、一般公募による住民など様々な立場の方々の参画を得て、２カ年に渡り計８回のワークショップを開催しました。幅広く美浜町の将来のまちづくりを視野に入れながら、新しい学校に対する期待に対し意見交換を行いました。

２）夢づくりワークショップ（令和４年度）

①　第1回　10月28日（金）19:00～21:00　美浜町保健センター集団指導室

テーマ「夢：こんな学校に通ってみたい！」

内容：過去や現在の学校について振り返った上で、新しい小中一貫校づくりにつながる希望や夢を話し合い、キーワードを整理する。

②　第2回　11月25日（金）19:00～21:00　美浜町役場大会議室

テーマ「子ども：こんな学校で学んでみたい！」

内容：これからの新しい学校の環境について検討する。子どもたちの視点にたって、新しい学校の生活環境、学習環境について、内外空間のあり方について話し合う。

③　第3回　12月22日（木）19:00～21:00　美浜町役場大会議室

テーマ「美浜：美浜の宝物を話し合おう！」

内容：それぞれの学校・学区にある資源（人・活動、もの・場所）を発見するとともに、新たな学校にそれらをどう活かし継承することができるのか話し合う。

④　第4回　1月24日（火）19:00～21:00　美浜町役場大会議室

テーマ「地域：地域にとって学校って何だろう！」

内容：新しい学校と地域との関係について考えてみる。地域にとっての学校の役割、学校にとっての地域の役割を具体的に話し合う。

３）学校づくりワークショップ（令和５年度）

①　第1回　10月24日（火）19:00～21:00　美浜町役場大会議室

テーマ「子どもたちの交流」

内容：美浜町のすべての子どもたちが、新しい学校で地域や年齢や個性を超えて交流しながら、学び、遊ぶ場面や場所を想像してみる。

②　第2回　11月27日（月）19:00～21:00　美浜町役場大会議室

テーマ「地域と学校の連携」

内容：美浜町で唯一の小中一貫校を中心にして、地域全体で子どもの成長を見守る仕組みについて考えてみる。

③　第3回　12月21日（木）19:00～21:00　美浜町役場大会議室

テーマ「大学と学校の連携」

内容：日本福祉大学の敷地内に建設予定の小中一貫校の立地特性を活かして、小中一貫校と高校・大学との連携協力について考えてみる。

④　第4回　　1月24日（水）19:00～21:00　美浜町役場大会議室

テーマ「基本構想の骨子」

内容：「美浜町小中一貫校整備基本構想」の作成に向けて、「小中一貫校の基本的考え方（案）」について意見交換する。

写真：ワークショップの様子

1-2 美浜町の学校施設の課題

1-2-1 美浜町の学校施設

現在（令和５年度）美浜町には小学校５校、中学校２校があります。それぞれの学校の児童生徒数は表１に示すように、学年１～３学級の規模です。また、町内における学校の位置は図１の通りで、東部エリアと西部エリアに位置しています。

表１　美浜町の小中学校

令和5年5月1日現在

区分	学校名	住所	通常学級		特別支援学級	
			児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数
小学校	布土	美浜町大字布土字半月 101	98	6	2	2
	河和	美浜町大字河和字古屋敷 124	426	13	40	7
	野間	美浜町大字野間字石名原 70	107	6	5	2
	奥田	美浜町大字奥田字海道田 55-1	103	6	23	4
	上野間	美浜町大字上野間字西之脇 171	108	6	7	2
中学校	河和	美浜町大字河和字六反田 130	266	9	13	3
	野間	美浜町大字野間字大坪 59	192	6	12	4

図１　美浜町の小中学校の位置

1-2-2 美浜町の学校施設の課題

美浜町では平成 29 年 3 月に「美浜町公共施設等総合管理計画」を策定しました。公共施設の管理状況を把握し、長期的な視点で効率的で効果的な維持管理の推進を図るものです。公共施設のうち教育施設の占める割合は極めて高く、個別の長寿命化計画の策定が急がれ平成 31 年 3 月には「美浜町学校施設等個別計画」をまとめています。

これらから現在の美浜町の小中学校施設における課題は以下の通り３点に整理されています。

１）児童生徒数の減少に伴う学校小規模化

美浜町においては、国が定める適正規模である「12 学級以上 18 学級以下」を満たす学校は、小中あわせて小学校１校のみとなっており、他の小学校４校ではクラス替えができない状況であり、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができないという問題があります。さらに、児童生徒数の減少に伴い、児童生徒間においても切磋琢磨する機会の減少、教職員の人数の減少などの課題も予測されます。

２）学校施設の老朽化

美浜町のほとんどの学校施設が昭和 50 年代に建築された点や劣化状況評価において、１つでもＤ評価（早急に対応する必要がある）がついた建物は、全体の 71%を占めています。また、雨漏りや、電気・機械の部材の経年劣化により、安全面での問題が生ずる可能性があります。

３）町の財源不足

美浜町の歳出をみると、土木費や施設管理費が増加傾向にあり、今後の人口構造の変化に伴い、町税の減少などが懸念される一方で、本町の保有する学校施設の老朽化は著しく進行しており、修繕費等の増加による多大な財政圧迫が予想されます。

２．新しい学校の理念

2-1 学校再編の経緯と考え方

2-1-1 学校再編の経緯

美浜町では、前章(1-2 美浜町の学校施設の課題)にて示したように学校教育施設の課題を①児童生徒数の減少に伴う学校小規模化、②学校施設の老朽化、③町の財源不足、の３点に整理しました。これを受け「学校再編の必要性」（「美浜町小中学校再編のための基本構想」平成 30 年 3 月）を示すとともに、「学校再編の枠組み」（「美浜町小中学校再編実施計画」令和 2 年 3 月）において、最終的に新設する小中一貫校への統合が計画され方針として決定されました。

この方針に従って、令和 4 年 4 月河和南部小学校は 149 年の歴史に幕を閉じ河和小学校に統合されました。一方で同年 10 月より翌年 1 月にかけ、住民らを中心とした基本構想策定に向けたワークショップが開催されました。令和 5 年 6 月には、小中学校再編に関する住民説明会が開催されました。また、前年同様に住民参加のワークショップを継続し、新しい学校の基本的考え方について意見交換を重ねてきています。

表２　学校再編の経緯

年度	月	事項
平成 28 年度	3 月	美浜町公共施設等総合管理計画
平成 29 年度	3 月	美浜町小中学校再編のための基本構想
平成 30 年度	3 月	美浜町学校施設等個別計画
令和元年度	3 月	美浜町小中学校再編実施計画
令和2年度	2 月	第5次美浜町総合計画後期計画（2021 年～2025 年）
	3 月	美浜町新学校整備基本構想
令和3年度	12 月	保護者アンケート
	1 月	小学校保護者説明会
	3 月	河和南部小学校閉校式
令和4年度	4 月	河和小学校と河和南部小学校の統合
	8、3 月	学校再編検討委員会
	9、10 月	小学校保護者説明会
	10-1 月	夢づくりワークショップ（計4回）
	2 月	子ども（小学3年～中学2年）へのアンケート
令和5年度	6 月	第1回美浜町学校再編住民説明会
	7、2 月	学校再編検討委員会
	10-1 月	学校づくりワークショップ（計4回）
	11、12 月	第2回美浜町学校再編住民説明会
	1 月	保護者アンケート

2-1-2 学校再編の必要性

これらの課題を受けて、「美浜町小中学校再編のための基本構想」（平成 30 年 3 月）においては「学校再編の必要性」を以下の通り記載しています。

美浜町小中学校再編のための基本構想（平成 30 年 3 月美浜町教育委員会）

（１） 再編の必要性

小中学校の小規模化が今後更に進むことにより、複式学級の編制を余儀なくされたり、 教職員の配置数が削減されるなど、子どもたちにとって望ましい教育環境の確保が困難になるとともに、学校そのものの運営にもさまざまな課題が生じてくる。このようなことを解消していくうえで、地理的条件や地域性、通学距離などの諸要件を考慮しながら、保護者や地域、教職員との協議を重ね、美浜町の実情にあった適正規模・適正配置を図るなど、子どもたちにとってより良い教育環境の整備を推進する必要があると考える。

（２）基本的な考え方

学校再編の実現に向け、平成 30 年度を初年度として、今後 15 年間の学校再編に関する 基本的な考え方（基本コンセプト）を示す。

○学校再編の基本コンセプト○

「子どもたちにとってより良い教育環境」を目指し、学校と地域の活性化を推進します

1　活力ある学校づくり

一定規模の集団の中で、多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて資質や能力を伸ばします。

2　適正規模と適正配置

クラス替えが可能な規模を目指します。

3　地域とともにある学校づくり

スポーツや文化活動の社会教育利用や地域防災拠点としての役割の充実を図ります。

2-1-3 学校再編の枠組み

「学校再編の必要性」を受けて、「美浜町小中学校再編実施計画～子どもたちにとってより良い教育環境を目指して～」（令和 2 年 3 月）では、学校再編の考え方を以下の通り具体的に示しています。

学校再編の枠組みについて

〇小学校

河和南部小学校児童が複式学級の懸念を将来に亘って払拭するとともに、多様な考え方に触れ、広い人間関係を構築できるよう、令和 4 年度に河和小学校へ統合します。

心身の発達に応じて、義務教育として行われる教育を基礎的なものから 一貫して施すことができるよう、9 年間を通じて教育課程を編成し、系統的な教育を目指すべく、布土小学校、河和小学校、野間小学校、奥田小学校と上野間小学校を令和 10 年度に新設の小中一貫校へ統合します。

〇中学校

心身の発達に応じて、義務教育として行われる教育を基礎的なものから 一貫して施すことができるよう、9 年間を通じて教育課程を編成し、系統的な教育を目指すべく、河和中学校と野間中学校を令和 10 年度に新設の小中一貫校へ統合します。

2-2 特色ある美浜の教育の推進

１）地域人材を活用し、「ふるさと美浜」のよさを知り、「ふるさと美浜」に誇りと愛着をもつ児童生徒を育てる「**ふるさと学習**（９年間の系統的な教育課程)」を推進します。

①美浜のよさを知る学習、体験する学習

・美浜の歴史、文化遺産等に関する学習

・自然（里山、里海）を生かした体験活動

②美浜のよさを発信する学習

③将来の美浜を考える学習

２）知的財産である**日本福祉大学との連携**を図り、質の高い教育を提供します。また、教員を目指す大学生が児童生徒と関わる場面を設定し、教員だけでなく多くの大人で児童生徒の活動を支援します。

①質の高い教育の提供

・大学の教授等と連携した授業づくり

・大学の教授等を講師とした研修会の実施

②大学生による支援

・学習支援

・部活動支援

３）小学校１年生から中学校３年生が同じ空間で学校生活を送る**施設一体型の小中一貫校のよさを生かす教育**を推進します。

①発達段階に応じた継続的、系統的な学習指導や生徒指導の推進

・９年間を見通した系統的な教育カリキュラムで課題解決能力の育成

・小学校高学年に教科担任制（一部教科）の導入

・中学生が小学校の教員に相談できる体制にするなど、９年間切れ目のない生徒指導、生徒支援の推進

②縦割り活動と異学年交流の推進

・縦割り班での清掃活動

・様々な活動での異学年交流

表３　教育課程と学年区分

<table>
<tr><td colspan="6">小学校課程</td><td colspan="3">中学校課程</td></tr>
<tr><td>小1</td><td>小2</td><td>小3</td><td>小4</td><td>小5</td><td>小6</td><td>中1</td><td>中2</td><td>中3</td></tr>
<tr><td colspan="9">9年間の切れ目ない教育の推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">前期</td><td colspan="3">中期</td><td colspan="3">後期</td></tr>
<tr><td colspan="3">学習指導、生活習慣の基礎基本の定着</td><td colspan="3">小・中学校の円滑な接続
学習の習熟</td><td colspan="3">自己の適性を
考えた進路選択</td></tr>
<tr><td colspan="5">学級担任制</td><td colspan="2">教科担任制
（一部教科）</td><td colspan="2">教科担任制</td></tr>
<tr><td colspan="9">縦割り活動・異学年交流（憧れ・自覚・思いやり）</td></tr>
</table>

３．小中一貫校の基本的な考え方

3-1　ふるさと美浜、未来を創るみんなの学校

美浜町は、町内の歴史ある複数の小中学校を統合し、新たに小中一貫校を創り上げることにしました。新しい学校は、美浜町の子どもたちが学ぶ唯一の公立学校であり、将来にわたり長く使い続ける公共施設となります。今後どのような社会になるのか不透明な中で、現在想定される変化を踏まえ、与えられた条件を活かしながら知恵を出し合って夢のある学校を創り上げたいと考えています。

図２　施設整備の考え方

そのために、第１に美浜という土地の特性や人の活力に根ざした学校づくりを目指します。具体的には、学校が美浜町の風土と歴史を引き継ぐ学校とするためにも、開校前から開校後に続くプロセスに多様な関係者が参画する機会を設け、美浜らしい魅力を引き出します。（ふるさと美浜の学校）

第２に、学校が地域の公共施設、共有財産として日常時、災害時を問わず安全で安心であること、また将来にわたり長く使うことができることを基本とします。と

りわけ、予測不能な災害に対する防災・避難所機能、子どもたちを危険から守る防犯機能の強化が求められます。そのためにも地域と連携しながら教育の質を高め、まちづくりの一翼を担うコミュニティ・スクール*を目指します。（みんなの学校）

第３は、新しい時代にふさわしい学習環境の整備です。学校を利用する多様な人々がストレスなく快適に過ごせる環境を確保します。小中一貫校の強みを生かした教育カリキュラムやICT*が活用しやすい環境を整備します。また、デジタル環境のみならず、豊かな自然環境を活かした屋外を含む全ての場所を学習の場とします。（未来につながる学校）

3-2　ふるさと美浜の学校

3-2-1　風土と歴史

１）気候と地形

敷地は伊勢湾を望む高低差のある丘陵地にあり、みどり豊かな自然に囲まれて温暖な気候にも恵まれています。大幅な土地の改変で景観を損なうことのないこと、また気候の特徴に対応した快適な環境を作るなど、自然特性を活かした学校とします。

２）旧学校の歴史継承

小中一貫校として統合される６つの小学校（現在は５校）と２つの中学校は、長い時間の中で個性的な伝統文化を育んできました。これらの歴史を引き継ぐことができるよう歴史資料の収納・展示スペースを設けるとともに、旧学校の痕跡をシンボライズする工夫をします。

3-2-2　学校づくりへの参画

１）設計・施工プロセスへの参画

学校を利用する子ども、教職員、保護者、町民など多様な関係者が設計・施工に参加する機会を設けます。そのプロセスを通じて、創意工夫や魅力ある豊かな教育環境、使いやすく美浜町の思いのこもった学校づくりを行います。

２）学校運営への参画準備

学校開校後コミュニティ・スクールとしてスムーズに地域と学校との連携を図ることが求められます。そのために学校運営協議会設立につながる準備委員会を設置し、想定される課題を取り上げることで設計に反映させます。

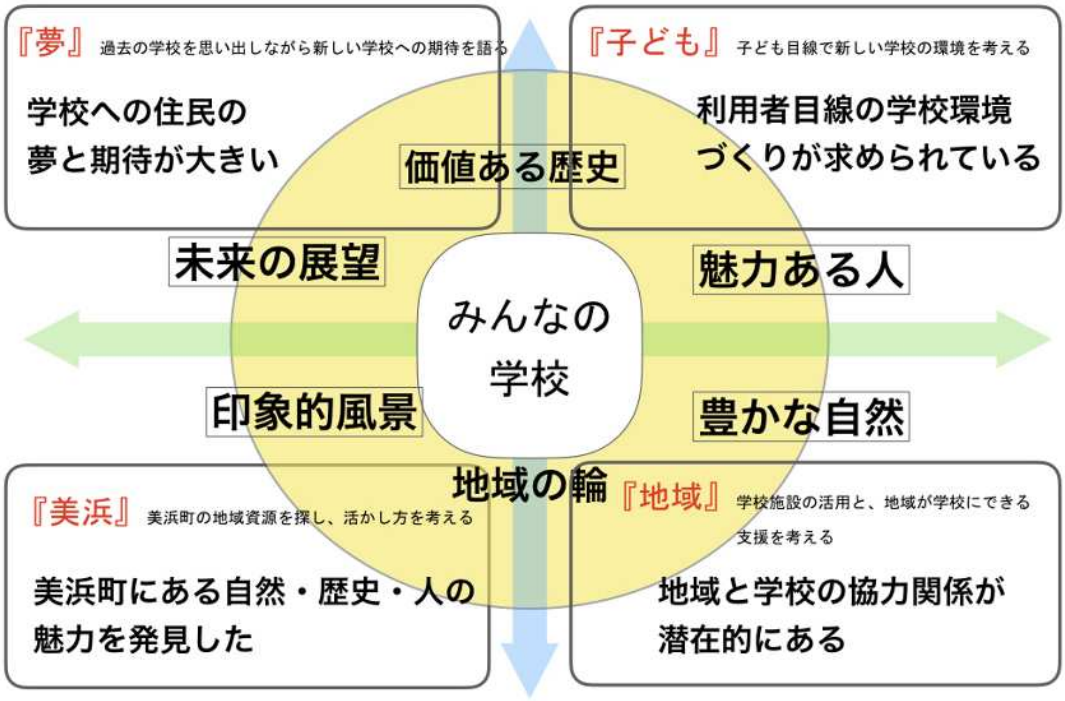

図３　ふるさと美浜の学校（令和４年度夢づくりワークショップ）

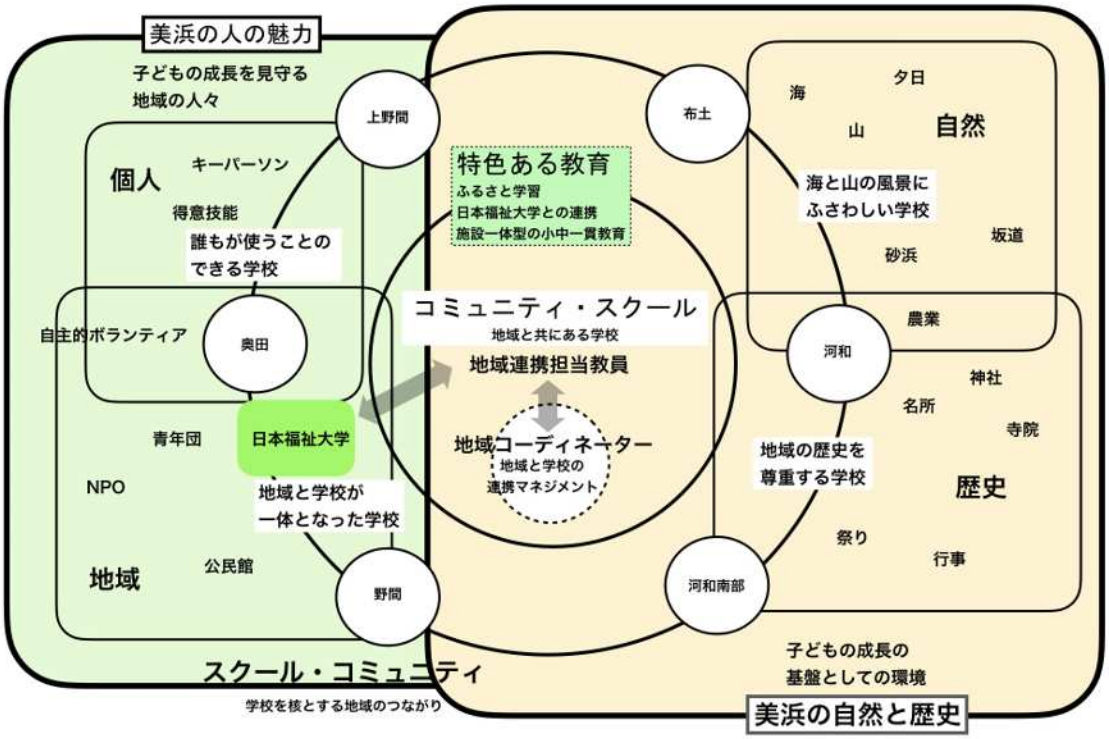

図４　みんなで創る新たな学びの風景（令和４年度夢づくりワークショップ）

3-3 みんなの学校

3-3-1　安全と安心

１）堅牢な学校

児童生徒等が毎日安全な環境で安心して学習・生活できるよう、学校建築の構造部材・非構造部材の耐震性能、および施設全体の耐火性などを確保します。また非常時の安全な避難経路を確保します。

２）防犯対策

地域に開かれた学校運営を前提とするものの、児童生徒の学校生活と地域利用が交錯しないよう計画します。不審者の侵入防止のために、建築計画的な観点から視認性や領域性を重視すること、また適切な防犯設備を整備します。

3-3-2　持続可能性

１）エコスクール

環境負荷の低減や自然との共生を目指すエコスクール*として整備をします。また、学校建築を環境教育の教材として活用することで、地域における地球温暖化対策の推進・啓発の先導的役割を果たします。

２）変化への対応

将来、学校運営に影響を及ぼすと想定される社会環境、教育内容・方法、地域コミュニティとの関連などの要素を念頭に、学級数の増減や教室の機能の変化に対応できる可変可能な計画とします。

３）容易な維持管理

学校建築竣工後も、長期にわたり竣工時の快適性を維持しつつ利用できるよう、維持管理が容易な材料の選択、更新の容易な設備・機器類の配置を行います。

3-3-3　地域との共創

１）地域学校協働本部の設置

学校と地域が連携して子どもの成長を支援し、また学校が町民の活動の場となるよう、両者をつなぎ活動拠点となる地域学校協働本部*を設置します。

２）大学・高校との連携

日本福祉大学美浜キャンパス敷地内に建設されることから、大学・付属高校の教室や運動施設などの利用や、大学・高校生との交流活動などが円滑に行うことがで

きるよう、施設配置や動線について十分検討し計画します。

３）子育て支援機能

放課後児童クラブなど、子育て支援に資するスペースの設置を検討します。

図５　地域による学校支援

図６　地域学校協働本部の環境

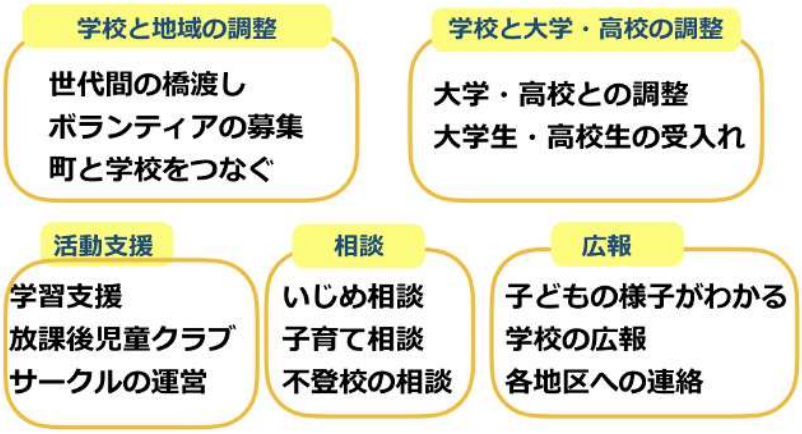

図７　地域コーディネーターの役割

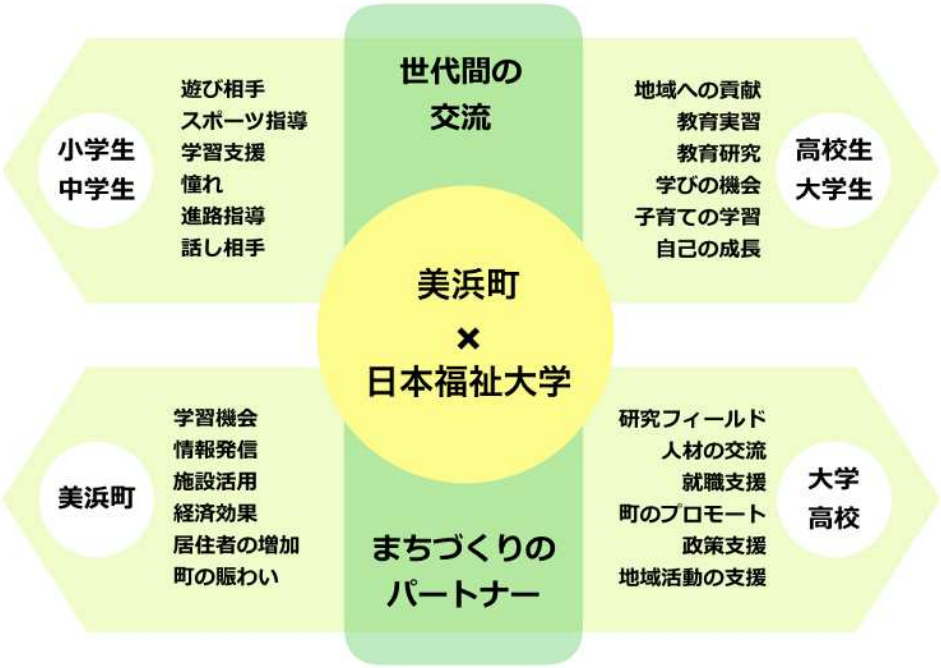

図８　大学との連携

（図５～８　令和５年度学校づくりワークショップ）

3-4　未来につながる学校

3-4-1　利用者に優しい

１）多様な利用者の受入れ

子ども・教職員・障がい者・町民など多様な利用者に優しいユニバーサルデザインとします。

２）居心地の良さ

自然エネルギーなどを導入しながら快適な温熱環境を保つとともに、利用者に居心地よく、愛着の感じられる多様な空間や自然素材を用いたインテリアを整備します。

３）教育的支援の必要な子ども

特別な支援を必要とする子どもや日本語教育を必要とする子どもなど、教育的支援の必要な子どもたちが心地よく過ごせる生活・学習環境を整えます。

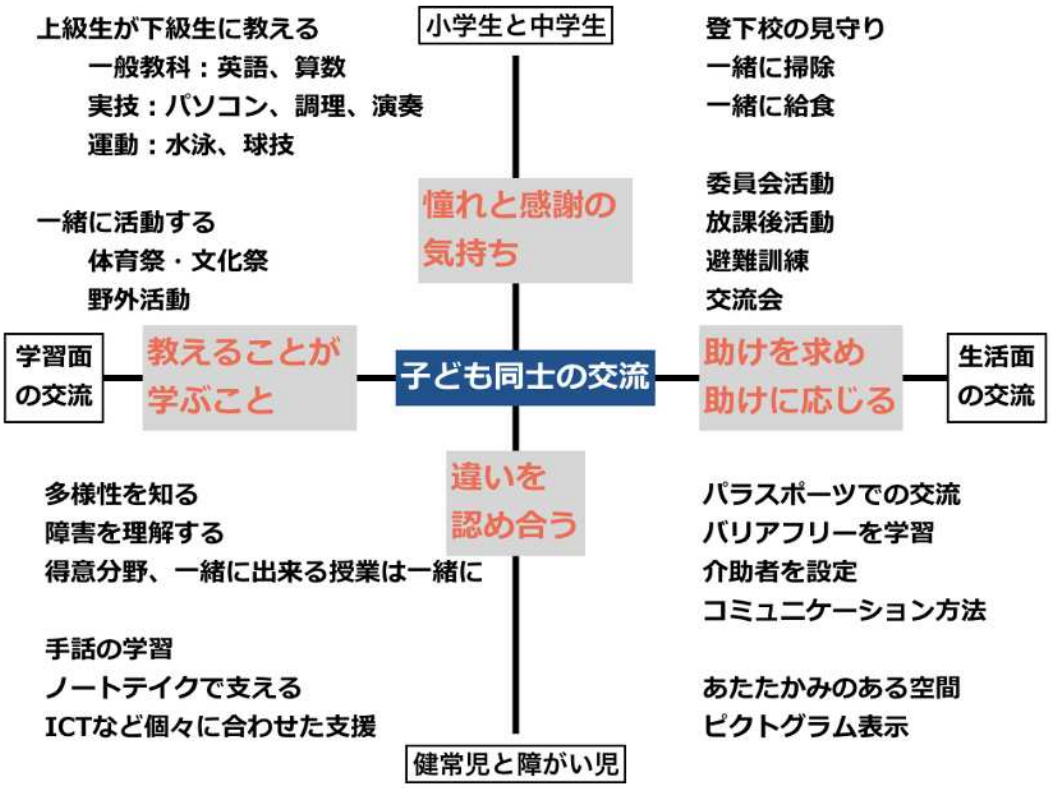

図９　子ども同士の交流（令和５年度学校づくりワークショップ）

3-4-2　小中一貫校

１）小中の一体性

小中学校が同一の施設で一体的運営を可能とする環境を整備します。教職員が教育活動に専念できるよう、校務にかかわる管理部門を集約し、働きやすく、円滑な運営を目指します。

２）学年の構成

同一学年の教室群の領域性を確保するとともに、発達段階に応じて隣接学年とのまとまりに対応した平面構成とします。

３）交流スペース

図書室や多目的スペースなど、小中学校の児童生徒が日常的に交流できるスペースと内外の動線を計画します。

3-4-3　次世代の学習環境

１）屋内外の学びの場

学びの場を校舎屋内に閉じ込めることなく、自然環境を生かして屋内外に広がる学校施設全体を学びの場として整備します。

２）多様な学習環境

グループ学習、少人数学習など多様な学習形態に対応したフレキシブルでオープンな学習環境を整備します。

３）デジタル環境の充実

コンピュータ、電子黒板などの ICT 環境を整備し、必要な場所で必要な時に十分に活用できるようにします。

４．事業スケジュール

小中一貫校の開校は令和 10 年４月としており、これを目標に事業を進めます。プロポーザル方式による設計者選定後、令和６～７年度にかけ設計作業を行います。一方で造成に関わる土木工事を７年度に想定しており、その後２カ年８～９年度にかけ建築工事を行います。

学校運営に関わる事項としては、①教育活動関連、②地域連携関連、③大学連携関連、④開校準備関連、⑤閉校準備関連があり、令和６年度より開校年度にかけて必要事項の検討を進めるものとします。

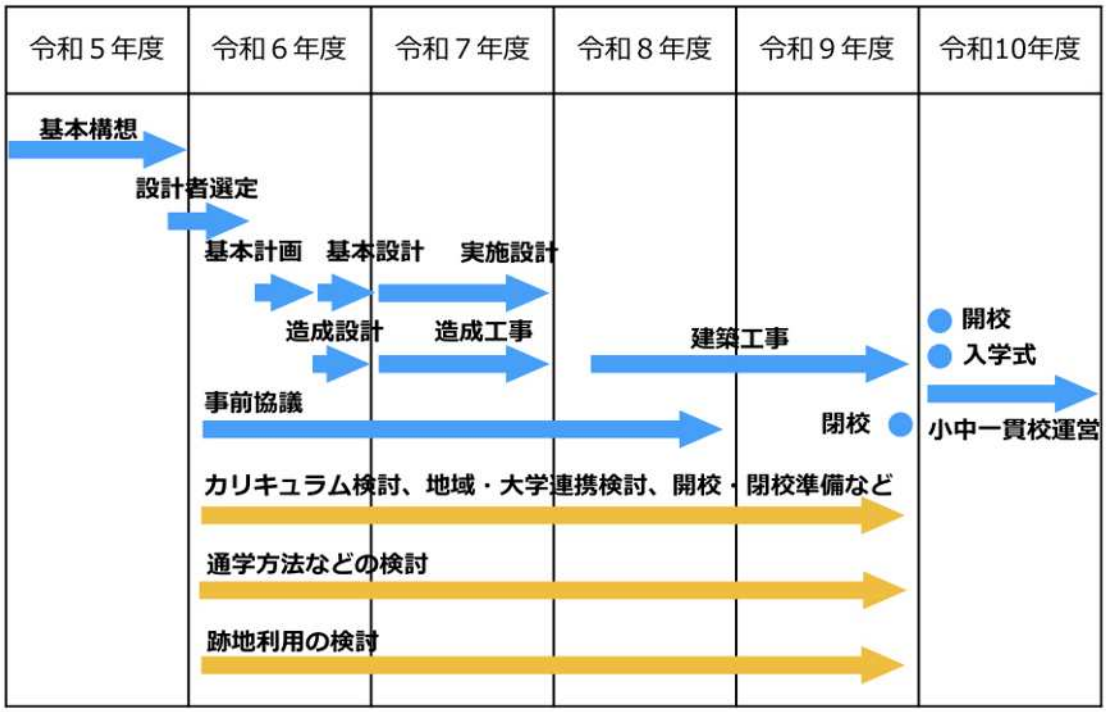

図 10　開校までのスケジュール

用語解説　本編で用いられている用語の解説です。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）

コミュニティ・スクールは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組みです。学校と地域住民等で構成する学校運営協議会を設置し、学校と地域が目標や課題を共有し学校運営に関する協議をします。

学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

学校運営協議会を設置した学校を「コミュニティ・スクール」と呼びます。

地域学校協働本部

地域学校協働本部とは、幅広い層の地域住民、団体等が参画し、地域学校協働活動を推進する体制として、平成 27 年の中央教育審議会の答申で提言されたものです。地域と学校をコーディネートし、多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動を継続的に行います。

ICT

ICT とは「Information and Communication Technology」の略称で、日本語では「情報通信技術」と訳されます。学校においては、電子黒板、パソコンやタブレットなどのデジタル器機の導入、インターネットを介した学習支援ツールの活用などを行う教育の総称です。

GIGA スクール

GIGA とは、「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字をとったもので、Society 5.0 時代(仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会)を生きる子供たちの未来を見据えて、社会環境の変化の激しい世の中でも順応していけるように ICT 機器を活用した新しい教育への転換の意味合いが込められています。

エコスクール

環境負荷の低減や自然との共生を考慮した学校施設として整備して、環境教育の教材として活用するものです。 学校が児童生徒だけでなく地域にとっての環境・エネルギー教育の発信拠点として、地球温暖化対策の推進・啓発の先導的な役割を果たすことが期待されています。

ワークショップ参加者からのメッセージ

以下は、第４回学校づくりワークショップ参加者（令和６年 1 月 24 日開催）からいただいたメッセージです。順不同で原文のまま記載しています。（　）内は学区名です。

●　子どもたちが外の世界へ出た時に、ふるさとである美浜を自慢できるような特徴のある体験ができる学校、そしていつでもふるさと美浜に戻って来れるような場所である学校を、町と住民が一体となって作っていけるような設計をお願いします。私立大学の中に町立の学校（小中学校）が出来る全国でも例のない試み、決して容易ではないことと思いますが、どんな子どもを育てていくかを大学との一体感をデザインしながら学校づくりをしていただけると幸いです。30 代、40 代の子育て世代の父母の意見をもう少しひろって活かしてください。（奥田）

●　豊かな自然に囲まれた美浜町の子供達が学ぶ唯一の学校として、お金がかかった、豪華な学校よりシンプルで学びやすい、居心地の良い学校であって欲しいと思います。子供達が職業に就く時代は今存在していない仕事、半数の仕事が自動化されているなど、未来に向けた求められる資質・能力を少しでも向上出来る特徴のある学びの場になって欲しいと思います。そんなイメージの学校を設計してください（上野間）

●　いちばん気になるのは防災、防犯についてです。子供を通わせる親にとって自分の居ない所に子供がいるというだけで不安なので、不審者の侵入が絶対に無いようにしてもらいたい。親も子供も不安の無い学校づくりをお願いします（奥田）

●　これだけ大規模な事だと大きな壁にぶちあたると思いますが、生徒がみんな笑顔になれて学校に来たいと思えるような設計にしてほしいと思いました。美浜町にしかない、できない整備になるとほこれる学校になると思います。折角全国初の大学の中に小中一貫校なので何か目玉になるようなモノがあるといいと思います。美浜町にいる親世代にアンケートをとったらよいと思います。（河和南部）

●　いくつかの小学校と２つの中学校が１つの学校になるので、それぞれの旧学校の良い所、残したい所を聞いて新しくできる学校に取り入れることが可能ならそうなるといいなと思いました。上野間小でいうと、裏山のサバイバルマウンテンにある、ハンモックやターザンロープなど、広いしき地内で作れたらあるといいなあと思いました。（子供の頃、楽しくて人気の遊具でとりあいだったので。）布土地区のお母さんと話した時、地域に公園がないとのことでとてもびっくりしました。子供たちが屋外の遊具でのびのびと遊べるといいなと思います。（上野間）

●　おしゃれだけど使いやすく、且つ暖か味のあるデザインでおねがいしたい。保護者もおもむきたくなるような学校に。大人も子供も高齢者も誰もかれもが使用しやすく町民にひらかれた、町民も使える学校明るい学校。（河和）

●　子どもたち、教職員、保護者、地域の人みんなが笑顔になる様な学校にして下さい。末長く使える学校にして下さい。メンテナンスしやすい点に留意して下さい。（不明）

●　そこに集うすべての子ども、学生（小学生～大学生）が安心して学べる学校ができたらよ

いと思います。子ども達に聞いたアンケートも取り入れていただき、大人達の合理的な発想で考えた施設を作らないでほしいです。インクルーシブな学校（すべての人が通いやすい通いたい）ができたらよいと思いました。（河和）

● 小中一貫に関係している子どもがいる保護者です。環境も、友達も沢山になり、通いたいと思える学校になってほしいと願っています。（布土）

● 子どもたちのために様々な大人が一生懸命考えたり話したり意見交換をしたりしています。が、通うのは子どもであり、週に５回、７時間をその場で過ごすのは子どもたちなので、子どもたちにも折をみて説明したり、学校で話題にしてもらったりしてほしいです。子どもたちが自分の学校を大好きになれるようもっていってほしいです。（布土）

● 様々な意見があると思いますのでまとめるのは大変かと思いますが。20 年、30 年、50 年、経った時に、あの時こうして良かったなとふり返れる設計にして下さい。（野間）

● 防犯に強い安全・安心を徹底していただきたい。（野間）

● 多様な利用者に配慮するあまり学生が使いにくい学校にならないようにして欲しい。蛇口の高さやトイレのサイズなど子供の体格を考慮して下さい。現状の換気の為に暖房を入れながら窓を開けるという状況と机と机の間隔が狭い問題が解消されると過ごしやすいと思います。個別最適な学びが出来るような環境にしてください。（河和）

● 木をふんだんに使った学校に!! 夢・愛のある明るい学校に（河和）

● 基本構想の「3-4 未来につながる学校」に記載されていることをぜひ実現させていただきたいと思います。特に屋内外の学びの場、多様な学習環境、学年の構成、交流スペースは美浜らしさをとり入れていただきたいです。（河和）

● ハードにあまり特色を出すと結局使いにくくなったりしますので、やりたいことソフト面の事業を反映した作りにしてください。大学との交流が可能となるスペースや動線をお願いします。（奥田）

● 何より子どもを第一に子どもが主役となる子どもの視点に立つ学校にしたい。美浜町を愛する子どもたち、美浜町の人々に愛される学校に。（河和）

● 小中一貫校となることで小学生の交流はもとより高校大学生と交流することで子どもや大学生がともに成長できることを期待しています。そのような動線、仕組みづくりが出来ることを期待しています。（不明）

● “子どもの未来”を守り、育てる大切な学校です。１つ１つ丁寧な仕事をお願いします。（河和）

● ゆったりとした空間をぜひ設けて欲しい。好きな姿勢で本を読んだり、友達と話をしたりする温もりのある場所を。コンクリートの冷たい壁ではなく木の温もりを感じる木造での設計をお願いしたい。（野間）

● 今回の小中一貫校の売りと特色は私立大学の校内に公立の小中一貫校設立だと思うので、その思いを具体化、具現化して欲しい。（河和南部）

● 美浜町らしさがある校舎、運動場にしていただきたいです。また、大学の敷地内という事

なので、小中一貫校↔大学↔地域がうまくいくような学校にして下さい。（河和）

● 主役である子どもたちの居心地の良い学校にしてください。そこで働く先生方も働きがいのある“美浜の学校に勤務できて良かった”と思える環境にしてください。地域住民も自然と集まって来やすい敷居の低い（セキュリティはしっかりと）学校にしてください。不登校・教育・子育てなど相談しやすい部屋をなるべく景色の良い場所に作ってください。（河和）

● ゆったりシンプルで使いやすい学校。地域学校協働本部の使用する場所の管理を学校職員の管理責任から切り離す。私立の学校に引けを取らない学校。給食の自校方式を実現してほしい。（上野間）

● 子供たちが行きたくなる、又帰りたくない学校にして頂きたい。学校という建物（空間）を無機質なものではなく、ワクワクする空間を作って頂きたいです。学校は地域のシンボルです。カッコ良くデザインしてください。（野間）

● 子どもが成長を実感できる場所にしてほしい。学年があがると「あんなこと」「こんなこと」ができると憧れがもてる場所にしてほしい。「基本構想」はたくさんの意見をまとめ上げてつくられたものだろうが、本当にこのような形式にまとめあげることは難しかったと思います。気力・体力をしっかりともちつづけてほしいです。（布土）

● 私が一番尊重することは、子どもが過ごしやすい、子どもの意見を取り入れた学校にして頂きたいです。また、発想力を育てるような設計にして頂きたいです。最後に防災拠点になるということですが、能登半島地震で気づいた点で災害時でも子どもたちが早く学校へ通学できる仕組みを考えて頂きたいです。（上野間）

● コスト面での制約はあるでしょうが、、、何よりも子どもたちが毎日楽しく、安全に学べて、「自慢できる」ような学校であってほしいです。そのため「カッコイイ」と思えるような設計、デザイン（空間デザインも含めて）としてほしいです。設計時に、ソフト面、運用面でのやりやすさを落としこんでいかなければならないと思います。タイムスケジュールもあるでしょうが、子どものことを、子どもの目線、キモチを優先してお願いします。（上野間）

● 平面、直線になりがちな校舎になると思いますが。丸みのある遊び心のあるデザインをとり入れてください。自然をとり込んでください。（奥田）

● 空と海と太陽に恵まれた美浜で知恵と体を育み、人と人の関係を大事にするだれもが住みやすい街、笑顔があふれる街の中ですくすくと育つ子どもたちをイメージしています。（上野間）

● 耐震等のしっかりした学校にしてほしい。学校にいる時に地震などが起きても学校だったら安心だと思えるようにしてもらいたい。大人目線ももちろん大事ですが、主役は子供なので、子供目線第一で！（河和南部）

● 今の学校教育を鑑がみた設計をするのは当然ですが、「美浜らしさ」「特色ある」学校設計を心掛けて欲しい。設計 WS（おそらくここでインフラとソフトのすり合わせがあると思いますが、法的、組織的な整理をする必要があります）を行うのであれば。意見（町民）を集約できるファシリテーターが必要になると思います。（布土）

● 防災拠点となる建物、トイレの工夫、階数によるがエレベーターの設置。（野間）

● 大学に設置するという最大の特ちょうを生かした設計にしてほしい。（不明）

● 骨子はまだ荒々だが出来た。案としては希望、夢いっぱいで理想。学校という新しいものを一から創り上げる事の大変さはあると思いますが、美浜町という小さな町の中に、全国初となる全国にほこれる建物を作っていただきたい。その為に皆で協力してこれからもよく議論したいですね！これからもひきつづきよろしくお願いします。（奥田）